

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童通所支援事業所でのひら 近江八幡音羽町		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 10日		2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2026年 2月 15日		2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	でのひら6事業所の中で最も広い、70坪の活動スペースを設けている。学習スペースは完全に個室化しており、周りの活動音も聞こえず、集中できる環境を作っている。	地域の支援級に通う児童(小1～中3)の利用が多い。学校や学年により下校時間も異なるので、個々に集中できるように設備を整えている。平日の16時頃からは集団活動を中心にイベントを立案している。	安全面に配慮した、ボールプールや鉄棒、跳び箱、クライミングなどを設置している。今後より多くの運動や体を動かす楽しみを見いだせるよう、大型遊具を増やしていく。
2	言語聴覚士、理学療法士、保育士などを常勤雇用して、言葉の引き出しを増やしたり、体の使い方、ルールやマナーを指導している。	A Iツールを用いて、児童の個別診断を行い、支援計画や日々の活動に取り入れている。	音羽はまだ開所して2年目であるが、でのひらには10年間系列事業に蓄積されたデータやノウハウがあるので、それをうまく使って、音羽の児童の成長に繋げていく。
3	バリアフリーのお手洗いを3つ完備している。2つは男女共用、1つは女性専用になっている。キッチンスペースも専用があるので、本格的な調理や児童に実施してもらくッキングや、お血洗いに活用している。	生理がはじまった女児へのケアや、小規模福祉施設では軽視されがちな女性職員への配慮もできている。バックヤードには広い休憩スペースやロッカールームも完備している。	もともと老人介護の施設だった為、今は仕切りで閉じているが広い入浴スペースが3ユニット分ある。入浴介助の必要性は今のところ感じていないので、室内温水プールなどへの改装を考えている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情緒面で不安定な児童が多く、急な欠席や長期に渡り利用がなくなることがある。※予定していた支援がストップしてしまう。	まだ学校にも不慣れで、1年生や2年生に多く見られる傾向がある。	利用を2年3年と続けてもらい、職員との信頼関係を深めていく。学校などでの困りごとを相談できるような関係性を築いていく。
2			
3			